

標本棚

私

と

昆虫

故郷の自然と親しむ

株式会社
大分イカリテクノス
代表取締役 菊屋 奈良義

地域の企業として地域に密着するのは当たり前。子供たちの自然離れが異常に思えたから、「泣かずに遊ぼう」をモットーに、小・中学校、幼稚園、県下の子供たちと、その土地の自然で楽しむ観察会を四十年。自然保護の活動とPCOが矛盾するなど視野の狭い批判も受けたが、人為環境と自然環境の利用区分を考えれば、矛盾が無いことに気づくに違いないと無視。



W I S E U
SEを提唱して三十年。一村一品の平松知事とも自然環境の賢明な利用で、開発工事の限度をアドバース。一緒に遊んだ子供たちが郷土の祇川で遊び続けて、国土交通省から表彰された。川で遊んだお陰で、ホタルのための手助けなど何もなかったのに、いつの間にかホタルが復活した。今年は四百個体乱舞。

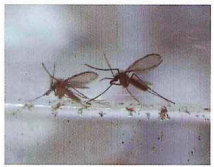


小悪魔サシチョウバエ

東京大学大学院
農学生命科学研究科
三條 千寿

サシチョウバエという虫をご存じでしょうか？

双翅目・チョウバエ科に属する体長二・三センチ程のこの虫を、私が初めて見たのはトルコでした。サンドフライトという英語名のごとく、体色は砂のように明るい薄茶色で、ウサギの耳のようにピンと立てた翅にスレンダーな脚。私は「なんて気品のある虫だろう」と釘付けになりました。



しかしながら、この小さな美しき虫は、種によつてはサシチョウバエ熱、バルトネラ症、リーシュマニア症等の感染症を媒介するやっかいな小悪魔なのです。

私がこの虫を見たのも、トルコ南東部ウフアに流行するリーシュマニア症の調査の時でした。日本では聞きなれない病ですが、世界における流行地は熱帯や亜熱帯を中心に八十八カ国にも及ぶと言われています。日本でもサシチョウバエの存在は知られてきたものの過去半世紀、調査は置き去りにされたままです。私はトルコで初めて美しき小悪魔を見て以来、念願だった国内調査を二〇〇七年より始め、現在でもサシチョウバエは国内に生息していることを確認しました。日本のサシチョウバエが感染症を媒介する可能性はあるのか、何種生息しているのか等、まだまだ知りたいことは山積みです。私とサシチョウバエの付き合いは長くなりそうです。

ノミ除け襟巻き

環境生物コンサルティング・ラボ
平尾 素一

今年六月二十六日から九月二十六日まで国立西洋美術館でナポリのカポディモン美術館が開催された。写真はこの美術館展での超目玉作品の「貴婦人アンテア」である。

作者はパルミジャーノ（一五〇三—一五四〇）。引き締まった小顔と挑戦的な目が魅力の名作で、そのモデルはローマの高級娼婦だとか、パルミジャーノの愛人だとか言われている。なにかと男性の想像力をたくましくさせるものがあるが、紹介したいのは彼女の右肩にかかった黒テンの襟巻きのことである。



「Wild life in the House & Home」は、この写真を引用し、十四—一六世紀頃、貴婦人たちは「leas Clavart（ノミ除け襟巻き）」と呼ばれるものをまとっていた。多分ノミを捕まえるもので、振り下ろすと落下すると書かれています。

人に近づいたノミをこの毛皮の中に潜伏させ、頭を持って振り下ろすと毛並の順目に添って落下するようである。十四世紀といえどヨーロッパが二度目のベストに襲われ人口の三分の一から四分の一を失った時代である。多分ノミも多く、その対策には大変な苦労があったと思われる。但し、当時の人々がベストはネズミのノミで広がることを知っていたかどうかは筆者には定かではない。見学したついでに美術館の学芸員に虫屋の世界ではこんなことを言うが、絵の世界ではどうかと聞いてみた。勿論ベストコントロールの宣伝もしておいた。後日メールで「調べたが絵の説明にはどれを見てもそんな表記はなかった、大変興味を持ちました」という返事をいただいた。

パズルで脳トレ日本の

数学力をUPしよう！

学校法人豊昭学園 昭と鉄道高等学校
菅野 正人

論語第6一雍也編20

子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者。子曰わく、これを知るものはこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを樂む者に如かず。子供たちは潜在的に計り知れない能力を持っている。数学に限らずどんな教科でも興味を持って楽しいと思つて取り組めるようになれば、その能力は遺憾なく発揮される事でしょう。そのきっかけを与えるのが我々教師の仕事だと考えています。



羽音

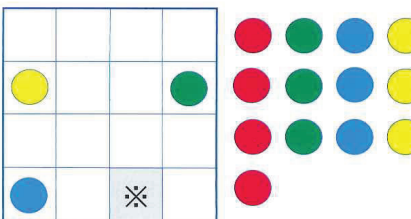
パズル研究については二〇〇五年学研科学大賞奨励賞の受賞を初め、文庫本で「漢字パズル般若心経」および「脳を鍛える数字パズルMS5+X、MS66X、MS77X」の出版、また、数学未解決問題エルデス・シュトラウスの予想を証明した論文が受理され、二〇〇八年、日本数学会「別冊数学文化・日本数学会論文集・第四号」に掲載されました。昨年九月には、今回出題させて頂いたパズルMS44Xの論文が、数研出版社の論文誌数研通信No.65に掲載され、今年さらに研究を進め、日本数学会論文集第五号に論文が掲載され、二年連続の論文掲載となりました。

そして、この夏休みには、これらのパズルで遊びながら身に付いたと考えられる論理的思考力が、どれくらい鍛えられたかを客観的に評価するための「思考力評価テスト」を考案し、東大駒場で開かれた日本数学会年次大会で講演し発表してきました。

このテストの完成により、このパズルが数学力の半分の要素を占める論理的思考力を集中的に鍛えるための方法として数学の授業などでも十分に使えるような形として完成したと考えています。先に述べた数学未

出題：菅野正人氏

4×4の16マスの縦・横・対角線の各4マスに赤・青・黄・緑の4色のビー玉が重複しないように入ります。全部の空きマスが埋まったとき※印のマスに入るビー玉は何色でしょうか。



むしくいず



自然界の報道写真家・宮崎学のホームページです。インターネットで「宮崎学」と入力すると、多くの関連項目が出て来ます。その中から「森の365日」の項目を選んでクリックすると、上の写真の画面が出て来ます。

ここでは野生動物たちからのメッセージを発信しています。「動物図鑑」掲示板や森のライブカメラによる二十四時間野生動物の動き中継をみたり、森のコミニティメンバーに登録を有料とすると、写真の投稿、意見交換が出来ます。自然と人間社会との関わりをあらゆる角度から複眼で取材する宮崎ワールドへの参加型ホームページとして人気上昇中です。

◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014 東京都港区芝2の23の4
アベックス産業内 APEX CLUB宛
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締切りは平成23年2月末日(月)(当日消印有効)
正解者の中から抽選で若干様に記念品を差し上げます。
★前号の正解と当選者(順不同)
正解は『水平線』でした。
当選者：仁井田恵美子、島田麗子、高安知彦の3名様です。